



大会宣言

JR東労組 千葉営業分会は、11月27日、千葉市生涯学習センターにおいて「千葉営業分会第28回定期大会」を開催し、これまでの取組みを振り返るとともに、向こう1年間の運動方針を全員で確認した。

前回の定期大会直後に流行が始まった新型コロナウイルスの影響で、私たちを取り巻く環境は大きく変化した。移動自粛・テレワークで利用者が減少し売り上げが減るとともに、分会運動の大幅な縮小・休止を余儀なくされた。そのような中でも、いわゆるエッセンシャルワーカーである私たちは、感染の恐れとたたかいつつ日々安全・安定輸送や増収に取組み、収益を確保してきた。年末手当の要求にあたっては、アンケートを取り組み、住宅ローンや奨学金返済など組合員の率直な生活実感を集約し、根拠を明確にして要求を行った。分会の主体的な取り組みで組合員の声を要求の根拠に高めて交渉を支えたことを教訓とし、21春闘へとつなげてゆこう。

要求を行い会社と交渉をし、労働条件を改善することは労働組合にしかできないということ今一度強調する。要求実現には、情勢を踏まえた根拠に加え、組織力も重要であることから、組織強化・拡大に力を入れてゆく。

欧米諸国に続いて、日本においても感染が再拡大しつつあり、先行きは不透明だ。シンクタンクである株式会社三菱総合研究所は、11月17日付の「ウィズコロナ下での世界・日本経済の展望」において次のように述べている。『国内外で感染が拡大しているが、企業・生活者の行動が変容し、コロナ下での経済活動再開が進んでいる。ただし、今後は回復ペースの鈍化を予想する。内需は、経済活動の段階的再開も、サービス業を中心に構造的な要因により回復に時間がかかること、非正規雇用やサービス業を中心に雇用・所得環境が悪化していることから、弱い動きが続くだろう。』とし、今後の感染拡大次第ではさらに厳しい状況にもなりかねない。

当社に関係しそうなところでは『旅行は、「旅行に行かない」割合が低下の一方、「旅行は遠距離ではなく近場にする」割合がコロナ発生前と比較し増加しており、感染が長期化するなかで生活者の旅行に対する意識が変化している。』とある。会社が行っている、車内消毒・換気で安心して利用していただくための取組みと合わせて、「ちょっとしたお出かけ」需要を喚起するところに活路があるのではないだろうか。生活に身近な鉄道ならではの強みを活かした提言を分会から生み出すとともに、安全を保ちつつコストを減らす意識を持つための議論を重ねてゆく。2期連続の赤字となれば、会社の信用低下を招き、銀行からの資金調達が難しくなってしまう恐れがある。なんとしても赤字を食い止めなければならない。

このような厳しい状況下だからこそ、千葉営業分会は人同士・職場同士の繋がりを大切に、強固なものにしていく。仲間を思いやり、支え合い、言いたいことが言い合える分会でありつづけよう。そして、健全な労使関係のもと施策へ真摯に向き合い、安全・雇用・働きがいを守るため活発に議論を重ねるとともに、東労組の生きのこりを懸け一人ひとりが組織の強化・拡大に向け奮闘してゆこう！

以上、宣言する。

2020年11月27日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部 千葉支部
千葉営業分会
第28回定期大会